

ご寄附のお願い

教育研究・地域連携を通して社会の発展に貢献できるよう「福知山公立大学基金」を設置しています。ご支援いただく皆様からの寄附金は、持続可能な地域社会づくりに向けて、大学の特性を活かしたさまざまな事業に活用させていただきます。

福知山公立大学基金

寄附の
目的

- 1 教育、研究活動、地域貢献活動の充実
- 2 学生支援の充実
- 3 施設・設備の整備
- 4 その他大学運営の向上



寄附申込みや
詳細はこちら

※1口当たりの金額は定めておりません。

福知山市のふるさと納税による寄附

福知山市外にお住まいの方は、ふるさと納税を通じて本学の教育研究環境の整備や学生への支援事業等に寄附いただくことが可能です。福知山市の特産品の中から希望の返礼品が贈呈されます。



ふるさと納税の
詳細はこちら

税制上の
優遇措置に
ついて

- 法人** 寄附金全額を損金に算入することができます。
- 個人** 所得税及び住民税に対する税控除があります。



福知山ロータリークラブ様から
テーブルセット一式を
寄贈いただきました

寄附については、総務・財務課までご連絡ください。

地域の皆さんも利用可能な施設

メディアセンター

約10万冊の図書や雑誌、新聞等を所蔵しており、生涯を通じた「学び場」の提供として広く開放しています。メディアセンターで借りた資料は福知山市立図書館(分館含む)に返却できます。

開館日 月～土曜日/9時～18時
※休館期間は9時～17時



食堂

日替わり定食や、麺類、カレーライスなどを提供しています。昼休みの12時00分～12時50分は学生の利用が集中するため、オープン直後がおススメです。

営業日 平日/11時～14時
※土日祝や休暇期間等は休業

利用方法 入口に設置している券売機で食券を購入し、カウンターにてお渡しください。



まちかどキャンパス「吹風舎」

新町商店街にあるサテライトキャンパスの「吹風舎(ふくちしゃ)」では、学生・教職員や地域の人々が集い、学び合いや共同作業を通じて交流を深めています。

開館日 火～土曜日/13時～18時
※祝日、お盆休み、年末年始は休館

利用方法 個人、グループで自由に使う場合 ▶ 予約不要
市民活動やサークル、ゼミで貸切利用する場合 ▶ 要予約



北近畿地域連携機構 Kita-re

企業や行政機関、地域の皆さんからの課題や相談を受け、教員につながる橋渡しの役割を担っています。共同研究や受託事業をお考えの方はぜひご連絡ください。

大学との
連携相談はこちら!

0773-24-7151



詳細はこちら

WEB オープンキャンパス

福知山公立大学の学びや先生からのメッセージなどを動画コンテンツでご覧いただけます。受験準備に役立つ情報が盛り沢山!

詳細はこちら



Follow me!

大学公式
SNS

Instagram
公式アカウント



@univfukuchiyama



イベント情報を配信



友だち追加はこちら



@UnivFukuchiyama

福公大だより

学舎新風

好奇心が原動力。

CONTENTS

- P1 大学院って何してるの?
- P3 教員新風
- P5 地域とのつながり
 - 復興ボランティア
 - 廃棄ロス食材の活用
 - 地域のブランディング
 - 空席確認システム

地域とともに次代を紡ぐ

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

【地域経営学部】

地域経営学科/医療福祉経営学科

【大学院地域情報学研究科】
地域情報学専攻

【情報学部】

情報学科

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
TEL:0773-24-7100 FAX:0773-24-7170
https://www.fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学 検索



2024年4月
開設

大学院って何してるの？

大学院「地域情報学研究科」の1期生に
スケジュールや研究内容について
インタビューしてみました！



えんどう ゆういちろう
遠藤 裕一朗さん
地域情報学研究科 修士1年生 倉本ゼミ
自律対話ロボットへの生成AI実装による
実験・分析を行っています。

1週間のスケジュール

※修士1年 前学期時点

月	火	水	木	金	土	日
10:00						
11:00	講義	学部生の講義で 後輩たちを サポート	研究	講義		
12:00						
13:00						
14:00	バイト	ティーチング アシスタント	講義			
15:00						
16:00	研究		研究			
17:00						
18:00	ゼミ					
19:00					バイト	研究の息抜きに 友達と遊びに 行くことも！

学部生の頃と比べると
講義数が限られ、
研究に集中できる環境です



かわにし りんのすけ
川西 凜乃助さん
地域情報学研究科 修士1年生
倉本・藤井ゼミ

AIによるコンテンツ創造の技術を磨き
人間クリエイターのサポートをめざす

高校生の頃から、AIや情報学にぼんやりとした興味を持っていました。大学入学後、「人間らしいAIをつくる」というテーマに惹かれ、本ゼミを選択。大学院に進んだ現在も学部からの研究を継続し、「AIによる4コマ漫画生成と面白さについての評価」に取り組んでいます。この研究では、4コマ漫画のフリとオチ(1コマ目と4コマ目)を人間が考え、その間を生成AIに埋めさせます。しかし、AIの創造物に対する評価方法は未だ確立されていないため、どうやってAIが生成したコマの「面白さ」を評価し、人間にフィードバックするかが大きな課題です。将来的には、一連のプロセスを通じてAIが生成するコンテンツの品質を向上させる手法の開発につなげたいです。この研究により、AIが人間の創造性を補完し、より面白いコンテンツを創り上げていける、未来のエンタテインメントの姿を描いていきたいです。

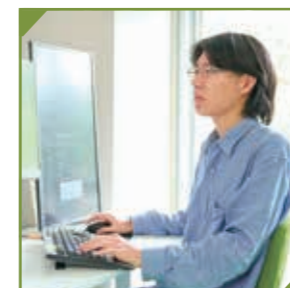


INTERVIEW

他の院生のインタビュー記事はこちら ▶



学部時代から、研究活動にのめり込んでいたのですが、更なるスキルアップと、研究成果の地域への実装に挑戦したいと思い大学院進学を決めました。どんな研究でも大切になるのが、課題解決のためのシステム開発です。大学院の学びを通して、プログラミングスキルやチームによる開発力は学部時代より向上しました。何をやるのにもプログラミングが必要でし完成するまでは大変なのですが、いざ完成したら「やっぱり楽しいな」と毎回思います。研究テーマは複数ありますが、今後メインとなりそうなのが福知山市大江町毛原地区の地域通貨の電子化です。電子化された米の重量が取引手段になるのが本研究の独自性です。電子通貨は、通常現金と同様に扱われることが多いですが、現金の価値を意識することなく利用できる点から、新たな知見が得られることを期待しています。将来は大学院で培ったスキルを社会で活かし、仕事を通して新たな知見や経験を積んでいきたいと考えています。



情報学は何をするにもプログラミング
大学院で得るスキルをさらに研鑽したい



みずの しょうた
水野 翔太さん
地域情報学研究科 修士1年生
山本ゼミ

トピックス

大学院開設 記念フォーラム

2024年8月25日(日)、大学院開設の記念フォーラムを開催。「地域情報学の可能性」をテーマに、基調講演や大学院紹介、パネルディスカッションが行われ、総勢85名の参加者で会場は大いに賑わいました。



社会人 受け入れ募集中！

大学院では、社会人の方も幅広く受け入れています。令和7年度から「長期履修制度」を設け、通常2年の履修期間を3~4年にすることで勤務しながらでも通いやすい環境を整えています。



募集要項や大学院の
紹介はこちら

教員新風

2024年4月に着任した、情報学部の新しい先生をご紹介します



いのうえ かずなり
井上 一成 教授

研究テーマ

- 地域課題の解決に向けた低コスト・省電力型で易しいIoTに関する研究
- IP・非IPを連携したネットワークと効率的な経路制御に関する研究 など



井上教授の紹介ページ

研究内容

昨今、手口が高度化し、大きな被害が問題となっている特殊詐欺を水際で防止するために、IoT装置、動画やチラシの制作、さらに出張講義など、市と連携しゼミ生も参加して取り組んでいます。

地域への取り組みと今後の展望

情報通信は、多くの方にご理解いただき、多くの方が恩恵を授かるべき技術です。社会インフラの一部というだけでなく、地域課題解決のためのIoTを情報通信のモデルとしてアピールしたいと考えています。

チェロ歴40年以上です。楽器を弾かれる方、お声がけください！

お気に入り



すしだ たかみち
須志田 隆道 准教授

研究テーマ

- 螺旋葉序の幾何学的な性質を解明するための数理モデリングと数学解析
- 細胞組織の形態形成などの生命現象を解明するためのデータ解析と数値シミュレーション



須志田准教授の紹介ページ

研究内容

ひまわりなどの植物の螺旋には、とても美しい数学的な構造があります。植物の構造から錯視(視覚系の錯覚現象)まで、実験系研究者と協働して、さまざまな生命現象の仕組みを解明するための研究を行っています。

地域への取り組みと今後の展望

現在行っている研究では、生命現象にフォーカスした基礎的な研究という側面が大きいです。将来的には地域社会の課題に目を向け、北近畿に根ざした研究にチャレンジしたいと考えています。

お気に入り



休日は子どもたちと公園に行っているのが好きです。

研究テーマ

- 画像認識技術および自然言語処理技術をもとにしたAIアプリケーションの研究
- レザパー計算等の脳型処理モデルの研究 など



野村教授の紹介ページ

研究内容

現在、画像認識技術や音声認識技術を活用したシステムの研究を行っています。また福知山の着物関連企業にご協力いただき、自然言語処理技術を応用してユーザーの希望に基づいた着物を提案するシステムの研究にも取り組んでいます。

地域への取り組みと今後の展望

着物の提案システムは、地元に着目したテーマとして地域への実装をめざしています。その他のテーマに関しても、これから福知山におけるニーズ探索を行い、応用の可能性を検討したいと考えています。

今年から保護猫ちゃん2匹と暮らし始めました。いつも癒されています。

お気に入り



のむら おさむ
野村 修 教授

研究テーマ

- 最適化問題の構造の分析・可視化



田中助教の紹介ページ

研究内容

制約の下、選択肢から最も目的に合ったものを見つけることを最適化と呼びます。私は、問題を解く方法(最適化アルゴリズム)ではなく、問題そのものの分析をしています。最適化問題をネットワークとしてモデル化し、その構造を分析・可視化しています。

地域への取り組みと今後の展望

情報学も義務教育となったので、福公大の学生だけではなく、地域の小・中学生、高校生とも一緒に学んでいけたらと思います。実社会の問題は最適化問題とみなすことができますから、地域が抱える諸課題を最適化問題として分析していきたいです。

お気に入り



趣味は旅行です。学会でオーストラリアを訪れた記念に1枚

たなか しょういちろう
田中 彰一郎 助教

本学の全教員の紹介ページはこちら



研究テーマ

- 細胞内化学反応系の解析・設計法の開発
- シミュレーションによる高速道路の交通流の解析と渋滞緩和法の開発 など



森教授の紹介ページ

研究内容

細胞内化学反応の解析・設計手順を開発しています。また、自動運転車と人間が運転する車が共存する高速道路の交通状況をシミュレーションし、渋滞が発生する条件やその緩和方法を考えています。

地域への取り組みと今後の展望

専門の制御工学を活かして、製造業などで困りごとがあればお手伝いいたします。また、将来自動運転車と人が運転する車が混在するようになったとき、福知山ではどのような問題が起こり得るか調べる手法を開発していきたいです。

お気に入り



音楽が好きで、好きなアルバムを聞きながら走ったり筋トレしたりしています。

もり よしひろ
森 禎弘 教授

2026年度から

学部の教育改編を実施します！

生成AIをはじめ、情報技術の急速な進展や人生100年時代の到来など社会の変化に対応するため、2026年度から地域経営学部・情報学部の教育内容や組織を改革します。

新たな教育目標

- データサイエンスなど情報技術を活用して地域課題に挑戦する“情報学を基盤とする地域協働型教育”
- 自身が活躍するために必要な知識やスキルを自ら学修できる力を養う“汎用的学修能力の育成”

2026年度の実現をめざす改革

- 情報学部の定員増(100名から120名へ増員)
- 地域経営学部の改編(2学科から1学科へ)
- 入試改革(選抜方法に総合型選抜の導入)
- 教職課程【数学(中学・高校)、情報(高校)】の設置

詳細はこちら





地域とのつながり

福公大では、北近畿をフィールドとして教室での学びを実践し、地域の方々との協働を通じ社会課題の解決をめざす活動を推進しています。

団体名 七福ふっこう隊

活動 復興ボランティア

復興ボランティアの活動を通して 能登と福知山の架け橋に

キーワード

#学生主体のプロジェクト(STL)
#被災地支援



情報学部 3年
「七福ふっこう隊」代表
まつだ ふうか
松田 二香さん

大学の呼びかけで能登半島地震の復興ボランティアに参加したことをきっかけに、学生団体「七福ふっこう隊」を立ち上げました。活動は現地での個別訪問や物資配布に加え、福知山と被災地をつなぐため、報告会や新聞でのコラム連載なども行っています。今春以降、被災地では「楽しんでもらうこと・話してもらうこと」を目的としたイベントや交流会に力を入れています。能登の桜まつりで住民の方が楽しむ機会の重要性を痛感したのがきっかけでした。被災者の方に大学名や顔を覚えていただき、感謝の言葉をかけていただくのは嬉しかったです。また行政機関や市民団体など、わたしたちの活動に関わる方々の支援や応援も、励みになっています。今後も仲間と助け合い、更なるステップアップをめざしていきたいです。

地域の声

七福ふっこう隊の皆さん、定期的に足を運んで、春頃からは仮設住宅中心にお年寄りから子供までが交流できる企画を考えてくださり、ありがとうございます。ここでは皆さんの存在は既に浸透しており、「能登のために」と考えてくれていることに私含め救われています。

一般社団法人NOTORN
のと復興人足隊
まつだ くり
松田 空莉さん



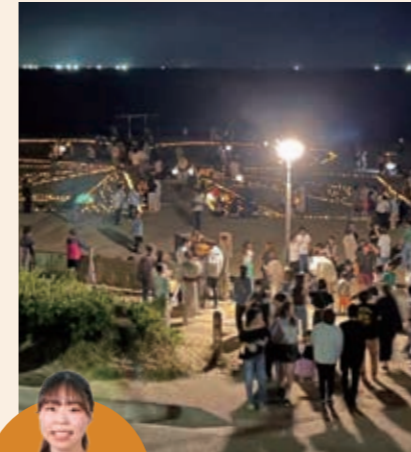
団体名 佐藤充ゼミ(地域経営学部)

活動 地域のブランディング

夕日ヶ浦のブランディングを通して 住民と観光客の満足度を向上させる

キーワード

#地域協働型教育研究
#観光イベント #京丹後市



地域経営学部 3年
佐藤充ゼミ 夕日ヶ浦班
こばやし なつき
小林 夏希さん

京都府北部の夕日ヶ浦は夏の海と冬の蟹が観光の中心で、春と秋の集客が課題でした。情報発信が不十分で、特に若者世代の認知度が低いです。そんな現状を解決するために夕日ヶ浦のブランディングを実施。地域の魅力を継続的にSNSで発信し、閑散期に合わせて観光イベントを企画しました。事前の住民意識調査から、観光客はもちろん地域住民の満足度向上が地域を活性化させると考え、2024年6月に「キャンドルナイト」というイベントを開催。観光客、地域の方あわせて約2500人にご来場いただきました。イベントでは自分自身の成長だけでなく、チームで取り組む一体感も得られました。多くの方の協力があって実施できたことを痛感しており、「つながり」の大切さを実感しています。

地域の声

皆さんにはこれまで地域でのイベントや旅行意識調査などで協力いただきました。現在は主にSNSでの地域情報の発信やアクセスデータの分析に共同で取り組み、弱点であったプロモーションの強化を図っています。今後もSNSマーケティングを活用し、夕日ヶ浦への集客促進につなげてもらえたらと期待しています。

夕日ヶ浦観光協会
だいでう かずまさ
大道 一正さん



団体名 アグリサーキュラーデザイン in Fukuchiyama

活動 廃棄ロス食材の活用

商品開発から販促までを手がけ 地域の問題をビジネスで解決

キーワード

#学生主体のプロジェクト(STL)
#企画・商品開発 #なすくらぶ全面協力



地域経営学部 3年
アグリサーキュラーデザイン
in Fukuchiyama
かい ひろき
甲斐 裕基さん

大学が市の委託を受け、起業を志す人の知識・スキルの修得を目的として行う「NEXT産業創造プログラム」を受講。多くの農作物ロスが発生している地域の現状を知り、学生の立場で課題解決に貢献したいと本団体を立ち上げました。三和町の農家の方からいただいた玉ねぎ800kgを用いて、地元飲食店である(株)オフィスヒュート(なすくらぶ)様全面協力のもと、各店舗に合わせたメニューの考案やお店の方からの意見を取り入れてプロモーション活動を行い、廃棄ロスを解消しました。企画開発は0から1をつくる難しさがありますが、捨てられるはずだったものに付加価値をつけて消費者に届ける重要性を感じています。地域の課題を社会の利益に変えることを目標に、今後も身近な課題から解決していきたいです。

地域の声

福知山市のために活動をされている姿に共感し、地域の方々にも素敵な取り組みを知ってもらおうきっかけとなり、とても嬉しかったです。同時にメニュー開発やPOP作成など、お店側の体験に参加したことでさらに視野を広げ、今後もフードロス削減活動が楽しく続いていくことを応援しています！

株式会社オフィスヒュート
本格炭焼鳥 鳥屋平兵衛商店
おおい しゅんすけ
大木 俊輔さん



団体名 島中理英ゼミ(情報学部)

活動 空席確認システム

開発パートを分担して 空席確認システムの構築に挑戦

キーワード

#地域協働型教育研究
#システム開発



情報学部 2年 島中理英ゼミ
空席確認システム班
あさい みさき
浅井 美咲妃さん(左)
やました はるき
山下 陽生さん(中)
うめはら ゆうだい
梅原 優大さん(右)

ゼミの同期3人で、空席確認システムの開発を行っています。昼休みの学食は混雑しており、事前に空席状況が分かれば、時差利用やキッチンカーでの購入も検討できます。また、空いている時間帯の利用者が増えれば、学食側にもメリットがあると考え研究に着手。システムでは、カメラで人や荷物の検出を行い、Web上で座席の利用状況を確認できます。梅原はカメラでの計測や判定を担当。ゼミ室での実証実験に向け調整を進めています。浅井はWebページとサーバを構築中。情報を確認しやすいページを追究しています。山下は、研究全体を俯瞰し、二人の機器やシステムをつなぎこんでいきます。このシステムが確立できれば、学食だけでなく公共施設にも応用できると期待しています。

先生の声

我々のゼミでは、学生たち自身で身の回りにある問題の調査からその解決システムの提案・実装まで行ってもらっています。本システムの実現にあたっては、実環境での実証実験が必要不可欠ですので、ご協力いただける飲食店等、皆様からのお声がけをお待ちしています。

情報学部
はたなか まさひで
島中 理英准教授

